

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

恵佑会札幌病院での国内外科研修を終えて

旭川医科大学外科学講座消化管外科学分野

大谷 将秀

この度、日本臨床外科学会の国内外科研修制度により、令和4年11月28日から12月11日までの2週間、恵佑会札幌病院で研修させて頂きました。

現時点で私は上部消化管外科専攻として北海道の地域医療に貢献したいと考えておりますが、食道癌に関して診療経験が少ないという悩みを抱えていました。そこで、本研修の目的である「他施設の手術を研修し手術手技向上の推進を計る」とともに、食道癌の外科診療について症例数の多い施設で集中的に学ぶことを目的に本研修を希望しました。

研修では、主に食道グループに属して、手術と病棟回診に参加させて頂きました。グループ内の手術は、ほぼ全例で助手として研修をさせて頂きました。2週間で9例の食道癌症例の手術があり、短期間で多くの症例を経験することができました。研修中には胸腔鏡下、ロボット支援下、開胸手術があり、それぞれの定型化された手術手技のほか、手術体位やポート配置、手術器具の工夫なども教えて頂くことができました。診療科を越えて食道癌手術に関わる耳鼻咽喉科や形成外科の先生にも教えて頂くことができましたし、術中の体位変換や手術機器などについては手術室スタッフの皆さんからも親切に教えて頂きました。迅速な手術進行で定時に定期手術をほぼ終了し、術後は切除検体を整理しながら先生方からのアドバイスを頂戴し、その後は医局で自由に手術映像を見直す、という外科医にとっては非常に贅沢な時間を過ごし、あっという間の2週間でした。また、胃・胆膵グループでもスクラブして胃癌手術の研修をする貴重な機会を頂き、自施設とは異なる手術手技や手順、術野展開等を見て刺激を受け、自分自身の手技を見直すとても良い機会となりました。研修では、他グループの手術見学も許可して頂いたため、下部消化器グループのロボット支援下手術も見学することができました。さらに、上記のような多くの定期手術のほか、地域における消化器救急当番を担って急性腹症手術まで行っていたことには驚きました。診療内容を考えると決して多くない医師数と感じましたが、多職種と密に連携して十分な診療を行う体制は、北海道の地域医療で直面する深刻な外科医不足への対策として、非常に重要であると感じました。本研修では、食道癌手術に関わる知識や技術とともに多職種連携による診療体制、地域における外科医の姿勢など非常に多くのことを学ぶ機会となりました。これらを今後の診療に十分に活かせるように日々精進して参ります。

今回、このような貴重な機会を与えてくださいました日本臨床外科学会会長万代恭嗣先生、国内外科研修委員会委員長高山忠利先生、北海道支部長の竹政伊知朗先生に深く御礼申し上げます。また、研修を快く受け入れてくださいました恵佑会札幌病院会長細川正夫先生、久須美貴哉先生、西田靖仙先生に心より感謝申し上げます。さらに、研修中にご指導頂きました北上英彦先生、藤原有史先生、吉川智宏先生ならびに恵佑会札幌病院消化器外科の皆様、関係各所の皆様に深く感謝申し上げます。

最後に、本研修に際して2週間の不在をお許し頂いた旭川医科大学外科学講座消化管外科学分野の角泰雄教授、長谷川公治先生、医局員の皆様にも御礼申し上げます。

